

## 『第32回サマーコンサート in 志木』に出演する

標記サマーコンサートが、2019年7月7日(日)、志木市民会館大ホールにおいて開催された。志木グリーンクラブは、初谷敬史先生の指揮で「今や 五月の季節」「夏は来たりぬ」「夏は来ぬ」を演奏した。

当日は、朝から曇りがちで、演奏会が終る頃は、雨がかなり激しく降る生憎の天候であった。今年、梅雨明けが例年より遅く、梅雨前線が日本列島南岸に横たわることが多く、日照時間の少ない日が続いていた。

サマーコンサートは、12時30分に開演し、今年の出演者は、器楽7団体、個人1名、合唱5団体であった。私達は、昨年と同様、参加団体の最初に演奏した。(別添;プログラム参照)

私達の演奏は、MC佐伯さんの団紹介で始まった。

『みなさま、こんにちは、志木グリーンクラブです。』

ご覧のとおり、最近、メッキリ物忘れが多くなったお爺さん達です。〈笑〉

本日は、皆さんの期待を裏切るような、演奏をしたいと、全員張切っています。

万が一、最後まで無事に歌い終えたら、〈笑〉

小さな声で「ブラボー！」と声を掛けて下さい。

演奏する曲は“今や 五月の季節”“夏は来たりぬ”“夏は来ぬ”の3曲です。

指揮は初谷敬史先生です。 それでは、お聴きください』

1曲目に演奏した「今や 五月の季節 (Now is the month of Maying)」は、イギリスの作曲家トーマス・モーリー(1559~1602)が、1595年に作曲した。

この曲は、イギリスのマドリガルで、歌詞を読むと分かるが、作曲のトーマス・モーリーがモーリー特有の明るさを表現した曲である。「Fa la la la la・・・(ファ ラ ラ ラ・・・)」と日本のお囃子のように楽天的で軽快なリズムを表現できなければ、この曲が持つ面白さが出てこない曲である。このことは、練習の時に初谷先生から何度も何度も指導を受けた。私達お爺さん達は、歌詞と音がシッカリ頭に入っていない。この味を出すことはなかなか難儀なことある。本番直前まで、楽譜に嘯り付いて遂にもものに出来なかったようだ。なお、演奏は初谷先生訳詞の日本語で歌った。

原詩

Now is the month of maying,  
When merry lads are playing, fa la,  
Each with his bonny lass  
Upon the greeny grass. Fa la.

訳詞：初谷 敬史

さあ今や五月 若者集う Fa la la la・・・  
緑の園 乙女とゆく Fa la la la・・・  
(繰り返し)

The Spring, clad all in gladness,  
Doth laugh at Winter's sadness, fa la,  
And to the bagpipe's sound  
The nymphs tread out their ground. Fa la

歓びの春 寂しさ消える Fa la la la・・・  
バグパイプの音 ニンフは目覚め Fa la・・・  
(繰り返し)

Fie then! why sit we musing,  
Youth's sweet delight refusing? Fa la.

君なぜ拒む 熱き言葉を Fa la la la・・・  
ニンフよいざ 恋のゲーム Fa la la la・・・

※ニンフ：妖精

Say dainty nymphs, and speak,  
Shall we play barley-break? Fa la.

(繰り返し)

2曲目に演奏した「夏は来たりぬ(Summer is icumen in)」は、イングランドのカノンである。この曲は、中世イングランドの代表的なカノンである。作られた時期については諸説あり、現在では1240年頃作られたとの説が、通説になっているようだ。

カノンは、あるメロディが順繰りに声部を変えながら登場して音楽を作っていく形式である。カノンの形式には、色々な種類があり“並行カノン”“拡大カノン”“縮小カノン”のほかに音の高さを逆転させる“反行カノン”時間的に逆転させる“逆行カノン”等がある。

今回演奏した「夏は来たりぬ」は、通常、上の4声と下の2声を合わせて6パート〈6声の厳格カノン〉で歌うことが多いが、今回は、上の3声と下の2声のペス〈足の意：オスティナート・バス(低音部の繰り返し)〉の5パートで演奏した。まず下の2声がお互いの声部を交換しながら進行し、それを3声が追っかけてこする形式で演奏した。

カノンと言えば、小学生の頃よく歌った「蛙のうた」や「静かな湖畔で」などでよく知られており輪唱と呼ばれている。

まさか、サマーコンサートでカノン(輪唱)を歌うなど想像もしていなかった。初谷先生は、我々お爺さん達が、現存する最古のカノンと知られているイングランドの声楽曲「夏は来たりぬ」を歌うとどんな演奏になるのか、テストするために、選曲したのではないだろうか。〈笑〉

いずれにしても聴衆の皆様に楽しんでいただかなければならない。そこで、この曲を歌う時、ステージでの並び方を変えた。上の3声をステージ下手(しもて)から、A(3名)、B(2名)、C(3名)部と並び、下の2声(各1名)がステージ後方に、間隔を開けて並んだ。しかも、初谷先生は、指揮をしなかった。我々だけで進行するので、他のパートの声をシッカリ聴かなければ、ずれてきてカノンにならなくなる恐れがあった。練習場と違ってステージは、少し勝手が違って、他のパートの声がよく聴こえなかったり、響きが違っていたり、耳を研ぎ澄ましていなければならぬ。練習通りいかないのが本番である。それでも、場数を踏んでいる〈笑〉お爺さん達は、途中少しズレたところがあったが、なんとか最後まで歌い切った。

原詩

Sumer<sup>\*1</sup> is icumen in  
Lhude sing cuccu  
Groweth sed and bloweth med,  
And springth the wde nu.  
Sing cuccu!  
Awe bleteth after lomb,  
Lhouth after calue cu.  
Bulluc sterteth, bucke uerteth,  
Murie sing cuccu.  
Cuccu cuccu  
Wel singes thu cuccu  
Ne swik thu nauer nu

日本語歌詞 初谷 敬史訳

夏を告げる鳥  
歌う.カッコー  
草木は萌え出で 花は舞う  
さあ カッコー  
  
羊はメエーメエー  
牛は モー  
愉快的ダンスに 陽気なカッコー  
カッコー カッコー  
  
名人カッコー 聴かせてよ

Pes

Sing cuccu nu. Sing cuccu.

ペス(足の意)  
歌えや さあ カッコー

3曲目は、「夏は来ぬ」を演奏した。

この曲は、作詞佐佐木信綱(1872~1963)、作曲小山作之助(1864~1927)、1896年に発表された歌曲である。楽譜は、三枝成彰(1942~)編曲の男声4部版を採用した。

作詞の佐佐木信綱は、和歌の創作・研究に多くの功績を残した歌人である。  
作曲の小山作之助（こやまさくのすけ）は、教育者、作曲家で、東京音楽学校卒業後は、学生指導や音楽の研究、作曲に熱心に取組んだ。

長いグリークラブの演奏活動の中で今回初めてピアノ伴奏でステージ演奏した。（ピアノは初谷先生）アカペラで演奏する時は、各パートが正確な音程と音色で歌わなければハモらないが、ピアノ伴奏がつくとこんなに楽に歌えることを実感した。

しかし、「夏は来ぬ」のように誰でも知っている日本語の歌詞の曲を上手に演奏するのは難しい。皆さん耳が肥えているので上手下手が直ぐにバレるのである。

初谷先生からは、日本語の歌詞をローマ字でイメージし（“うのはなの におうかきねに・・・”を“unohanano nioukakineni・・・”のように）母音を響かせ、音符1音に歌詞の1音をのせ、子音は少し前出して豊かに響かせて歌うよう指導を受けた。やってみるとこれがなかなか難しい。

また、“うのはなの におうかきねに”は、“< > < >”のようにクレッシェンドからディクレッシェンドと膨らまして窄めるを繰り返し、1拍目と3拍目にアクセントを付けて歌うことを求められた。

この曲もピアノの力を借りて、何とか歌い切った。

3曲とも出来映えがどうであったか直ぐには分からなかったが、取敢えず最後まで無事演奏できた。冒頭のMCのアナウンスが効いてか、小さい声で「グラボー」「グラボー」の声がかかった。〈笑〉その声に気分を良くしてステージを降りた。

「夏は来ぬ」は、古典文学者の佐佐木信綱が、19世紀に作詞した古い歌曲なので、普段聞き慣れない表現が多用されている。もう一度、歌詞の意味を考えてみる。

（以下、Wikipedia “世界の民謡・童謡” の記事引用）

#### 歌詞

1. 卯の花の、匂う垣根に  
時鳥、早も来鳴きて  
忍音もらす、夏は来ぬ
2. さみだれの、そそぐ山田に  
早乙女が、裳裾ぬらして  
玉苗植うる、夏は来ぬ
3. 橘の、薫るのきばの  
窓近く、蛍飛びかい  
おこたり諫むる、夏は来ぬ
4. 棟ちる、川べの宿の  
門遠く、水鶏声して  
夕月すずしき、夏は来ぬ
5. 五月やみ、蛍飛びかい  
水鶏鳴き、卯の花咲きて  
早苗植えわたす、夏は来ぬ

### 1 番の歌詞：ホトトギスと卯の花

1 番の歌詞で冒頭に登場する「卯の花（うのはな）」は、初夏に白い花を咲かせるウツギの花を指す。旧暦の4月（卯月）頃に咲くことから「卯月の花」＝「卯の花」と呼ばれた。

「早も来鳴きて」とは、「早くも来て鳴いている」の意味。

「忍音（しのびね）」とは、その年に初めて聞かれるホトトギスの鳴き声を指し、『古今和歌集』や『枕草子』などの古典文学作品にも登場する古語の一つ。



卯の花（ウツギの花）

### 2 番の歌詞：山村の田植え

『夏は来ぬ』2 番の歌詞では、山村での田植えの様子が描写されている。さみだれ（五月雨）とは、旧暦の5月頃に降る雨を意味する。五月（さつき／皐月）は田植えの月として「早苗月（さなえつき）」とも呼ばれた。

「早乙女（さおとめ）」とは田植えをする女性、裳裾（もすそ）とは衣服のすそ、「玉苗（たまなえ）」は、「早苗（さなえ）」と同様、苗代（なわしろ、なえしろ）から田へ移し植えられる苗を意味している。

### 3 番の歌詞：「蛍雪の功」

3 番の歌詞では、まずミカン科の柑橘類の一種であるタチバナ（橘）が描かれる。『古今和歌集』でも取り上げられ、「五月待つ 花橘の 香をかげば 昔の人の 袖の香ぞする」（よみ人しらず）などと詠まれた。歌詞の後半で「蛍飛びかい おこたり諫（いさ）むる」とあるが、これは中国の故事「蛍雪の功（けいせつのこう）」からヒントを得た表現であろう。

『夏は来ぬ』の歌詞においては、「蛍雪の功」の故事をふまえ、夏の夜も怠らず勉学に励めと、まるで飛び交う蛍に諫められているかのような表現となっている。

「蛍雪の功」に関連する歌としては、卒業ソング『蛍の光』や『仰げば尊し』が有名。

### 4 番の歌詞：農村の夕暮れ

冒頭の「棟（おうち）」とは、夏に花をつける落葉樹のセンダン（梅檀）を意味する。水鶏（クイナ）は、古典文学にたびたび登場するヒクイナ（下写真）を指していると思われる。

ヒクイナの鳴き声は戸を叩くようにも聞こえることから、古典文学では「くいな」、「たたく」、「門」、「扉」などの単語と関連付けられて用いられてきた。



クイナの写真

## 5 番の歌詞：総まとめ

『夏は来ぬ』最後の節では、1 番から 4 番までの歌詞で登場した既出の単語をまとめて再登場させ、歌全体を締めくくるような構成がとられている。

初夏に関連する季語をズラッと並べて、様々な風物詩を通して夏の訪れを豊かに表現している。「五月（さつき）やみ」とは、「五月闇（さつきやみ）」、つまり陰暦 5 月の梅雨が降るころの夜の暗さや暗やみのこと。

(2-nd tenor 和氣敏夫記)



第 3 2 回サマーコンサート in 志木  
〈志木グリークラブ演奏〉





第32回サマーコンサート in 志木

The 32th summer concert in Shiki

2019年7月7日(日)

開場 12:00 開演 12:30

志木市民会館パルシティ

入場無料

主催：(公財)志木市文化スポーツ振興公社  
サマーコンサート実行委員会  
後援：志木市、志木市教育委員会、志木市商工会  
(株)ジェイコムさいたま東上局  
(株)クローバーメディア  
協賛：志木音楽サークル連絡会  
(ポスター・印刷 丸山 実絵)

＜プログラム表紙＞

ごあいさつ

(公財)志木市文化スポーツ振興公社 理事長 高橋 良和

本日はお忙しい中、「第32回サマーコンサートin志木」にご来場いただき、誠にありがとうございます。  
サマーコンサートは志木市民会館の夏の恒例行事として開催され、今年で32回目を迎えております。  
サマーコンサートを30年以上にわたり、継続開催にご尽力いただいていることに対し、実行委員会をはじめ関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。また、いつも楽しみにご来場、いただいている皆様にも、深くお礼申し上げます。  
本日は、志木市の音楽文化の発展に努めてこられた音楽愛好家の団体の皆様から、今後を押し引きされる団体まで、様々なジャンルの13団体に出演をいただいております。  
来場者の皆様におかれましては、7月7日の七夕の日に、各団体の多彩な演奏で、ホールに響く美しいハーモニーを心いつけい感じいただき、思い出に残る素敵な一日にしていただければ幸いです。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。  
ちなみに、本コンサートの開催にあたり、本コゴ出演されます皆様には、日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮していただくとともに、今後ますますのご発展をお祈り申し上げます、挨拶いたします。

実行委員長 清水 健策

本日は 第32回サマーコンサートin志木へご来場いただき、誠にありがとうございます。  
昭和63年にスタートした当コンサートは、平成の時代を駆け抜け、令和という新しい時代を無事に迎える運びとなりました。この32年という長い時間の中で、少しずつ変化をしていく一方、積み重ねた歴史を何より大切に育てていき、たくさんの方々の方で作り上げられた大切な宝物になっているのだと、感涙をしながら改めて感じることも出来ました。  
たとえ世の中が大きく変わっていったとしても、この音楽という宝物は何も変わる事なく、未来へ向かって輝き続けてくれる事を七夕飾りに願いを込めつつ、会場のお来場と共に演奏会を楽しみたいと思っております。  
最後になりましたが、志木市の夏の恒例イベントとして、このステージが今年も盛人に開催できますのも、実行委員のご協力、関係者の皆様のお力添え、そして何より、お暑い中会場へ足を運んでいただいたお客様あっての事と思っております。  
改めて深く御礼申し上げます。それでは最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

第32回サマーコンサート in 志木 実行委員会

実行委員長	清水 健策	書記	西瀬 広美 久保 翔太
副委員長	杉野 敏夫	実行委員	各出演団体代表
会 員	市橋 京子	事務局	(公財)志木市文化スポーツ振興公社
会計監査	齊藤 忠信	アナウンス	佐伯 陽子
庶 務	坂田 玲子	プログラム制作	徳田 輝二
ポスターデザイン	今田 勝直		
チラシ制作	水川 昌苗 坂本 定義		

～プログラム～

<第1部>

**1 志木グリークラブ** 指揮：初谷敬史

1. Now is the month of Maying (今や、五月の季節) 作曲：T.モーラー 訳詞：初谷 敬史
2. Summer is icumen in (夏は来たりぬ) 作者不詳(イングランドのカン) 訳詞：初谷 敬史
3. 夏は来ぬ 作曲：小山作之助 編曲：三枝成彰 作詞：佐々木信綱

我が団は、平成4年男声合唱とお酒が大好きな仲間が集まり発足し、今日まで歌い続けてきました。現在は団員の高齢化と減少が悩みである。歳を取っても気持ちちは万年青年のお爺さんたちは、本日も『ブラボー!』の聲が掛かるよう、年季の入ったハーモニー《笑》を目指して熱唱します。

**2 ストリングス志木** 代表：蛭田悌二

- アイネ・クライネ・ナハトムジーク 作曲：W.A.モーツァルト  
 I アレグロ II ロマンズ III メヌエット IV ロンド

志木ニュータウンの集会所などで、蛭田先生のご指導の下に室内楽や弦楽合奏を楽しんでおります。本日はモーツァルトの代表的な弦楽セレナーデ「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」をお聴きいただきます。

**3 細田学園高校合唱部**

1. 藍色の約束 作詞、作曲：水野良樹
2. 創聖のアクエリオン 作曲：菅野よう子 作詞：岩里祐穂

私たち細田学園高等学校合唱部は、3年生1人、2年生2人、1年生1人の計4人で活動しています。きわめて人数が少なく、声量が足りないところが課題点ではありますが、どうぞお聴きください。

P - 2

**4 ASW☆quintet**

1. デイベルクイメント 変付長調 作曲：J.ハイドゥン  
 I Allegro con spirito II Andante quasi Allegretto III Menuetto IV Rondo Allegretto
2. 1となりのトロコ」メドレー 編曲：福田洋介

私達は志木市吹奏楽団オール志木ウインドに所属するメンバーで構成した木管五重奏の5人組です。去年のサマーコンサートが、結成初の大きな舞台でした。今年も出演出来る事を、とてもうれしく思います。

**5 オカリナ四季** 指揮者：杉山雅彦

1. 民衆の歌 作曲：C.M. ショーンベルク
2. ある愛の歌 作曲：フランシス、レイ
3. 雨にぬれても 作曲：バート、バカラック
4. 感情 作曲：サミー、フェイン

平成から令和へ！合わせるように新メンバーも加わりました。まだまだ頑張ります！毎週土曜日の夕方から心一つに練習に励んでいます。杉山雅彦先生という良き指導者に恵まれています。皆さん、是非見学に来てください。

**6 八風山低音フラスアンサンブル**

1. チャンピオン/アリス 作曲：谷村新司 編曲：山岸和正
2. 人生のメロ・ゴードランド〜ハワルの動く城より〜 作曲：久石譲 編曲：高橋宏樹
3. The Times 作曲：高橋宏樹

八風山低音フラスアンサンブルは金管楽器のユーフォニアム、チューバのアンサンブル団体です。昨年までは4人で参加していましたが、今年は新メンバーを迎え5人になりました。パワーアップした演奏をお聴き下さい。

**7 志木混声合唱団** 指揮者：室伏正隆 伴奏：山崎 愛

1. メモリー (ミュージカル キッツより) 作曲：A.L.ウェバー 作詞：海野洋二
2. 演歌メドレー 北西の春 ～ 北西編 ～ 川の流れるように

4年前から合唱団や吹奏楽団の育成に定評のある室伏先生を指導者に迎え、クラシック、世界の民謡、童謡、演歌、ジャズなど幅広いジャンルに取り組み、明るく、楽しく、元氣よくをモットーに練習に励んでおります。

P - 3

< 休 憩 >

< 第2部 >

**8 琴の会**

代表：市橋京子

1. ことた〜わらべ唄〜 日本古謡 編曲：水野利彦
2. 粘（きめた） 作曲：宮城道雄

昨年はサマーコンサート参加20回を迎えられました。新たなスタート今年の1曲目は、わらべ唄メドレー。2曲目は織った麻や木綿の布を柔らかくする“粘”というリズムカルな曲を、高校生から60代までで演奏します。

**9 みずかわ まさし（ギター弾き語り）**

1. Mary Jane メリージェーン 作曲：つのだ☆ひる 作詞：Christopher Lyn
2. 越冬つぼめ 作曲：篠原義彦 作詞：石原信一
3. 終わらなき旅 作詞 作曲：みずかわまさし

鹿兒島陸軍の武将の血を引く孤高のアーティストみずかわまさしです。刃をギターに持ちかえて日本人の情念や死生観をアグレッシブかつ繊細に唄います。プロフェッショナルな生唄き語りを中心までご鑑賞下さい。

**10 ドン・キホーテ男声合唱団**

指揮：河田修朗

1. 男声合唱組曲「道徳の意」より 雨後 作曲：多田武彦 作詞：三好達治
2. 男声合唱組曲「水旱集」より 時雨（しぐれ） 作曲：多田武彦 作詞：北原白秋
3. 男声合唱組曲「雨」より 雨の日に見る 作曲：多田武彦 作詞：大木惇夫

おかげさまで平成のはじめ誕生のドン・キホーテ男声合唱団も二つの年男にまたがったの活動となりました。季節にちなんだ雨の歌を、昭和生まれのメンバーが演奏させていただきます。

**11 志木第九の会**

指揮：藤崎美苗 伴奏：矢内直子

1. 群青 作曲：小田美穂  
作詞：南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生
2. 「メサイア」より レチタティーボ(No14ab No15 No16)、合唱(No17) 作曲：ヘンデル

志木第九の会は創立28年。いろは遊学館ホールではほぼ毎週土曜、多彩な指揮陣により丁寧な指導を受け成長する混声合唱団です。定期演奏会も昨年で19回を数え、来年秋にはヘンデルのメサイア全曲を発表する予定です。

**12 アンサンブル WINT**

代表：清水健策

1. ロッツウォルズの風景 作曲：広瀬勇人
2. 時代 作曲：中島みゆき

出会いと別れ、喜びや悲しみの側にはいつも音楽があったりします。それは思い出となり華やかに、そして静かに瞬間や風景を彩ります。世間は新しい時代を迎えましたが、変わらないウイントの音楽を今年も皆様にお届けできれば幸いです。

**13 志木フィルハーモニー管弦楽団**

指揮：山本宏一

1. ヨークシャーバラード 作曲：J.バーンス
2. 歌劇「エフゲニー・オネーギン」より「ボロネーズ」 作曲：チャイコフスキー

私たち志木フィルハーモニー管弦楽団は志木市と近郊の楽器好きが集まったアマチュア市民オーケストラです。9月29日14時よりこのパルシェイホールで志木市在住のピアニスト伊藤理恵先生をソリストに定期演奏会を開催します。



**第32回**  
**サマーコンサート in 志木**  
Summer Concert in Shiki

**2019年7月7日(日)**  
開場 12:00 開演 12:30  
会場 **志木市民会館 パルシティ**  
**入場無料**

**【第1部】**

- 1, 志木グリークラブ
- 2, スtrings志木
- 3, 細田学園高校合唱部
- 4, ASW☆quintet
- 5, オカリナ四季
- 6, 八国山低音ブラスアンサンブル
- 7, 志木混声合唱団

**【第2部】**

- 8, 琴の会
- 9, みずかわまさし (ギター弾き語り)
- 10, ドン・キホーテ男声合唱団
- 11, 志木第九の会
- 12, アンサンブル WINT
- 13, 志木フィルハーモニー管弦楽団
- 14, 全員合唱

主催/サマーコンサート実行委員会 / (公財) 志木市文化スポーツ振興公社  
後援/ 志木市 / 志木市教育委員会 / 志木市商工会  
(特) ジェイコム埼玉・東日本 東上局 / (特) クローバーメディア  
協賛/ 志木音楽スクール連珠会 ポスター: 飯塚 / 丸山 英敏  
問合せ / 志木市民会館 パルシティ 048-474-3030  
または [sumcon@sbs.or.jp](mailto:sumcon@sbs.or.jp)  
【アクセス】 志木駅東口バスターミナル2・3・4番より「駅前通」下車 徒歩2分

コンサートをご紹介! 是非ご覧ください。  
デイリーニュース、番組にて  
J:COM チャンネル埼玉 (11ch)  
7/5 (金) 放送予定  
17:00~生放送 (再放送 20:30~)  
地域情報アプリ「ど・ろーかる」でも  
1週間視聴できます!

志木市在住の音楽愛好家から  
プロ演奏家のジョイントコンサート




〈チラシ表面〉

**第32回サマーコンサート in 志木 演奏曲**

<p><b>【第1部】</b></p> <p>①志木グリークラブ (男声合唱) Now is the month of Maying (今や、五月の季節) Summer is loumen in (夏は来たりぬ) 他</p> <p>②Strings志木 (弦楽合奏) アイネ・クライネ・ナハトムジーク (全4楽章)</p> <p>③細田学園高等学校合唱部 (混声合唱) 音色の約束 創聖のアクエリオン</p> <p>④ASW☆quintet (器楽) ディベルティメント 変ロ長調 I. Allegro con spirito II. Andante quasi Allegretto III. Menuetto IV. Ronco Allegretto 「となりのトトロ」メドレー</p> <p>⑤オカリナ四季 (器楽) 民衆の歌 標榜 他</p> <p>⑥八国山低音ブラスアンサンブル (器楽) チャンピオン/アリス 「ハウルの動く城」より 人生のメリーゴーランド 他</p> <p>⑦志木混声合唱団 (混声合唱) ミュージカル「キャッツ」より メモリー 演歌メドレー 北国の春、北酒場、川の流れるように</p>	<p><b>【第2部】</b></p> <p>⑧琴の会 (邦楽) ことうたへわらべ唄~ 碓 (きぬた)</p> <p>⑨みずかわまさし (ギター弾き語り) メリージェン〜春夏秋冬 (メドレー) 終わりの旅 (オリジナル)</p> <p>⑩ドン・キホーテ男声合唱団 (男声合唱) 男声合唱組曲「追憶の恋」より 雨後 男声合唱組曲「雨」より 雨の日に見る 他</p> <p>⑪志木第九の会 (混声合唱) 群青 「メサイア」より レチタティヴォ (No.14(a)(b)、No.15、No.16) 合唱 (No.17)</p> <p>⑫アンサンブル WINT (器楽) コッツウォルズの風景 時代</p> <p>⑬志木フィルハーモニー管弦楽団 (オーケストラ) ヨークシャーバラード 歌劇「エフゲニー・オネーギン」より ボロネーズ</p> <p>⑭全員合唱 夏の思い出</p>
--	---

※楽曲は変更になる場合がございます。

**<イベント情報>** 下記公演チケット好評販売中! 詳しくは市民会館まで (☎048-474-3030)

<p>◆舞臺「香島季一之輔のドッソリ まわるぜ2019」 会場: 市民会館 7月14日(日) 開演 13:00 発演 13:30 前売 3,600円 当日 3,900円 全席指定席</p>  <p>※撮影: 山田雅子</p>	<p>◆「サントベテルブルク国立 舞台サーカス」 会場: 市民会館 8月3日(土) ① 12:30 ② 15:00 一般 2,800円 3歳未満無料、無観</p> 	<p>◆まぐじ文化公演 ミュージカル「シンテララ」 会場: 市民会館 8月17日(土) 開演 13:30 開演 14:00 一般 1,000円 小 人 500円 (8歳未満は500円) ※座席指定席あり 出演: 鈴木まりや 他</p> 
---	---	---

〈チラシ裏面〉

以上